

○市長（比田勝尚喜君） 今、吉見議員さんのほうから本当に発言がありましたように、私自身も対馬のあちらこちらでいろんな面でボランティアの活動をしていただいている方に対しまして、心よりお礼を申し上げたいというふうに思います。

本当、大変だというふうに思いますけども、先ほどのケネディ元大統領の言葉ではありませんけども、お互いがそのような形でやっていただければ対馬市のほうも、まだまだ活性化するんじゃないかなというふうに思っております。

それと、この市役所の踊り場の件ですけども、私自身も誰がしているかというのは承知しておりますけども、この方が本当に率先して、自らボランティアでこの花も生けていただいておりますし、朝は朝でまた、玄関前の掃除等もしていただいているということで、感謝いたしたいと思っております。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） 今まで言いました、西川端があそこにお花をきれいに植えてある、それから、お船江のあの公園もきれいに草刈りをしてある、そして今、言いました、各階にはこんな色紙とお花とか飾ってきれいに、みなさんボランティアでしてありますので、会われたりとか、その方を知っていたりすれば、その場で感謝の気持ちっていうんでしょうか、あらわしていただければ、なお励みになるのかなと思っております。

これで終わります。

○議長（小川 廣康君） これで、吉見優子君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩します。再開を2時ちょうどにします。

午後1時49分休憩

午後1時59分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き一般質問を行います。

3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） さきの市会議員選挙で皆様の御支持いただき、初めてこの席に立たせていただきました豊玉の長郷といいます。よろしく願いいたします。

お疲れ時分と思いますけども、2点ほど確認質問をさせていただきたいと考えております。

まず第1点目ですけども、これは道路行政についてですけども、道路というのはどの地域も整備を急がれている地域が多々あるかと思っておりますけども、今回私が手にした過疎計画に、仁位貝鮎線の道路改良というのが掲載がありました。

仁位貝鮎線といっても延長がかなり長うございますので、どの部分かが特定できておりません。資料によりますと延長1,400メートルという記載だけがあるのみで、年度設定等々がございません。

ちなみに私が要望をしたいのは、この仁位貝鮎線の中で、神話の里シンボルタワーがあるんですけども、和多都美公園に行く手前です。それから糸瀬側に向かって、国道382に逃げる道路がありますけども、その間を今回は取り上げてみたいと考えております。

御承知のように、この道路は生活道路であることは間違いありませんが、そのほかにも、この道路の先には4集落がございまして、そこには対馬の主な産業である真珠養殖の事業所が16事業所ございます。ここで雇用されている人数が132名、通勤のために利用されている車の台数が76台ということで、これは真珠組合のほうから資料をいただきました。

そういったふうに頻繁に使われている道路であるということと、もう1点は、和多都美の神社、神話の里、烏帽子岳展望台に通じる道路でもあります。

ここのバスの利用、大型が多いんですけども、これはバス会社の資料なんですけども、28年度で5,382台行きましたよという数字をいただきました。これを単純に計算しますと約十五、六万人行っているのかなと推測をしているところです。

こういった重要な路線であるにもかかわらず、現況は幅員が狭い、カーブが多い、そして待避する場所も少ないというのが現状であります。

市のほうとしても当然観光産業を重点施策としてされておりますので、早急に整備されるとは感じてはおりますけども、ここら辺の具体的施工年度、施工箇所、どういった考えをお持ちなのかまず1点教えていただければと思っております。

第2点目ですけども、これも最近知ることができたんですけども、先ほどから出ております有人国境離島法による雇用の創出の問題なんですけども、これ、私の方法は、ホームページで見ただんですけども、一般財団法人豊玉町振興公社が地域商社の新たな挑戦ということで事業採択がされておりました。

これはこれとして別に何ら問題はないんですけども、ただ、この地域商社ということは、常々市長が述べられておりましたことは耳にしておりましたけども、どういった形の商社をお考えなのか。それと、現実的に商社が本当に成り立つということをお考えなのかどうか。

私もいろいろ調べさせてもらいましたけども、なかなか、原料の調達問題から加工の流通のシステムの問題、ここら辺はネックになっていて難しい部分が多々あるんじゃないかと私は感じております。

そこら辺は市のほうがどういう対応で解決をなされて、今後、地域の雇用に創出しようとなされているのか、そこら辺をまず教えていただければという思いでここに立っております。

これは私の持論なんですけれども、経済活動を通じて地域の雇用が生み出されているわけですが、その雇用の基本というのは、まず外貨、対馬市が外貨といえば、対馬の外からという意味なんですけれども、外貨を稼ぐというのがまず必要じゃないかと、稼ぐためには産業を興さなくちゃいけない。

そして、起きた産業で内需を拡大しなくちゃいけない。要するに地域内消費を拡大していかなければ、これが、私は地域の経済活動といいますか、雇用というか、その地域が伸びていくための産業面の必須条件じゃないかと考えております。

さすれば、13事業がこの前採択されておりますけれども、これをとやかく言うつもりは毛頭ありません。そういった理念のもとで事業を展開していただければ、雇用も十分にけると考えております。それは私の持論ですので、それをそのまま当てはめるつもりは全くありませんけれども、私はそういった観念で今からの4年間、議員として活動をさせていただきたいと考えております。

ついぞと云っては何ですけれども、私の持論は「一歩前へ」です。とにかく進めようと、進める精神で物事にアタックしていこうという概念で仕事をさせていただきたいと思っておりますので、以上、2点について答弁を簡潔明瞭にお願いいたします。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 長郷議員の御質問にお答えいたします。

初めに、道路改良計画について御説明いたします。

平成29年度の本市の道路整備事業は、補助事業の改良工事5路線、災害防除工事1路線、交通安全施設整備工事1路線と起債事業の改良工事を2路線の計9路線の事業を行っております。

市道仁位貝鮎線の改良予定区間といたしましては、まず、仁位地内の市道仁位嵯峨線との分岐点、赤鳥居の所でございますけれども、ここから糸瀬地内の市道板糸瀬線との分岐点までの区間、現道では2,020メートルでございます。ここを計画しております。

この区間は、糸瀬、嵯峨、佐志賀、貝鮎地区と仁位を結ぶ重要な生活道路であり、また、和多都美神社や烏帽子岳などの観光地と市道板糸瀬線とを經由し、国道に連絡する非常に重要な路線でございます。

近年の観光客の増加に伴い交通量が増加し、特に大型バスの通行が多くなっておりまして、事故等も危惧されるところでございます。

このような現状から、市といたしましては、これまで補助事業での採択に向けて努力してきたところではございますが、現在着手中の継続事業につきましても予算確保が厳しい状況でありまして、補助事業の採択には至っておりません。しかしながら、早急な整備が必要であるということとは十分承知しておりますので、平成30年度から起債事業での着手に向け協議を進めてまいり

たいと考えております。

また、糸瀬貝鮎間につきましては、仁位糸瀬間の改良完了後、引き続き検討をしてみたいと考えております。

次に、対馬市地域商社につきましては、平成29年4月から有人国境離島法の施行に伴い、雇用創出拡充に向けた支援策が設けられており、その施策を効果的に支援するため実施するものがあります。

基本的な方向としましては、対馬のすぐれた地域資源の独自の市場確立に向けたブランド化や販路開拓、事業者育成支援によりまして、対馬製品の拡大と雇用を創出し、生産者の所得向上を図ることを大きな柱としており、長崎県と県内の国境離島市町と連携した統一的な施策であります。

そういった中で、対馬市としましては、新しく地域商社を立ち上げるのではなく、現在、水産品の加工事業を展開しております一般財団法人豊玉町振興公社に地域商社機能を付加し、対馬市の地域商社として、市内事業者が生産する島内製品の取り扱い及び島外販路の開拓機能を主軸に展開していきながら、市内事業者の新たな販路開拓ツールとして取り組んでまいりたいと考えております。

また、観光客のニーズに応じ、地元の飲食店等での対馬の鮮魚が食される市内供給体制の構築が必要でありまして、配送センター機能を持たせた事業の展開や、水産加工品における原材料供給機能もこの地域商社に付加した中で、全体的な底上げを図ってまいりたいと考えております。

次に、対馬市地域商社における雇用関係であります。都市部への対馬製品の販路開拓につきましては、一定の見識を持った方が必要と考え、本年9月ごろをめどに鮮魚、水産加工品販売の営業経歴や、水産加工場管理経歴を持つ方を雇用するように計画しております。

対馬市地域商社の販路開拓等の核となれる方とっておりますので、その方を中心に原材料等配送業務1名、次の担い手を想定した事務・販売を1名の3名を雇用し、地域商社機能を高めていきたいと考えております。

最後になりますが、対馬市地域商社として5年後の自立を目指した中で、売上目標を3億円程度と見込んでおります。将来的な事業運営につきましては、そのような状況を見ながら、民間レベルで運営していただく方向で考えております。

当面は、官民一体となってオール対馬での対馬製品の底上げを図ってまいりたいと考えておりますので、対馬市地域商社設立における御理解をよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） ありがとうございます。

地域商社はつくるべきだと私も考えております。それについて全く異論はございません。

ただ、ひとつ私危惧しているのが、地域商社、一般財団法人豊玉町振興公社を充てるということなんですけども、これは第一セクターになるんですか、第三じゃないですね。市だけが多分財産を寄附行為で持っている団体じゃないかと記憶しております。

そうすると、官主導で物事を図っていこうという考えになろうかと思うんですけども、現実的に官主導でやられてきて、今の市長のお話ですけども、5年後にめどと、自立するめどということですけども、私の知り得る限りでは逆に厳しくなっていくんじゃないかと考えておる次第です。

まず、厳しいの第1点が原料の調達です。でも、これは固有名詞ですからあえて言えませんが、既に島内に水産加工をされて大手の業者が運営されていますけども、ここの原料はほとんど島外からというお話をいただいております。

既に小さい業者の方がおられて、観光物産協会の加入をされている方々が物産関係だけで74件おられるわけですけども、こういった方々が原料を苦慮しているんじゃないかと、原料がないと言ったほうが、これはストレートな表現になりますけども、調達に苦慮しているんじゃないかと、原料が手に入らない、物が無いというのが現状じゃないかと思えます。

水産関係は特に水という観点から考えると、水物ですからなかなか量が一定しない。対馬の場合は特にそういう形態の漁ではありませんので、加工する原料を大々的に商社でやるというのはいかなるものかと考えております。

豊玉町の振興公社が施設を整備されて、新たに出発されるということについては全く異論はないわけでありますので、ここと商社を結びつけられることについて、公社の運営そのものがきつくなるんじゃないかと、商社と公社は別に切り離すべきじゃないかと考えております。

その商社というのは、例えば、今まで決定される過程において、いずれかの団体と協議なされたのか。それとも先ほどの話をそのまま100%のんでしまうと、とりあえず豊玉町振興公社でいいかと、短絡的に考えればそういう捉え方にも私はとりました。

できれば観光物産協会の物産部門もいろいろあって現在の形になっておりますけども、この物産部門の育成を考えると今の形でいいものかどうか、この1点をまずお聞かせ願いたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、この地域商社につきましては、確かにその原料調達を危惧される面もあろうかと思いますが、市内12漁協、そして、農協、森林組合等と協議をいたしまして、まず、この市内12漁協につきましては、そういった原料等の調達についてはやりますというような話をいただいているところでございます。

そしてまた、経営に関しての出捐金ということでのお願いもしておりますけども、漁協等につ

きましては、10万円から30万円の範囲で計330万円の出捐金も拠出していただけるというような話をさせていただいているところでございます。

それから、この地域商社に関して、観光物産協会の物産部門に入れるべきではないかといったような話でございましたけども、物産部門のほうはなかなか製造のほうまで今の段階では至っていないということで、この地域商社では製造から販売までを一手に行っていくという形で、今の豊玉町振興公社に流通機能を付加した地域商社が望ましいのではないかとということで現在進めているところでございます。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） まず1点絞りますでしょうか。まず振興公社の機能の問題なんですけども、一体的にという理想的な姿は理解はできます。私自身もそう考えるところもないわけではないんですけども、私は、豊玉の振興公社は既に30年近く運営をなされてきて、ある程度の流通は確保できていると、多分グリーンコープだったですか、そういったほうで生協さんのほうと取り引きがなされると考えております。

今度新たな工場を建てるということは、多分そこら辺の生協が扱う規格に合った商品をつくるために新しい工場を建てるというふうに理解しております。

そのためには金属センサーであったり、水の検査であったり、そういったものが生協は厳しいです。だから、そういったものがクリアできる施設がここにできるのであって、一般の民間の方々が加工されたものをこの商社に、仮に商社と言いますが、持ち込んできて、果たしてそこら辺がクリアできているのかなと、結構厳しいです、ここら辺のクリアというのは。

だから、そういった機能は多分有されると思うんだけど、そこに引っかけた場合、豊玉町振興公社、商社とあえて言いますが、商社だけが没になるということではなくて、対馬の商品が没になるという懸念があります。

だから、個人の方々がつくられたものを、そこで商社が一括集めて、バイヤーさんを通じていろいろな方面に売ると、それはそれですばらしい形だと思うんですけども、ただ、私が危惧するのは、そこら辺の指導まで逆にやっていただけるのかなと、個人の事業者の方々を、商品を買集めて出すということであれば、その責任は負わなければならないというふうに考えております。

そういったものを少しずつ精査していくと、私は、先ほど私の持論を通すつもりはないんですけども、現在の公社さんは、あくまでも今のやられている形を貫いて、グレードのあるものをつくっていかれればいいんじゃないかと、商社は商社として小っちゃい事業者の方々、公社も含めてですけども、製品をちゃんと流通、販路に乗せる仕事をしていかれればいいんじゃないかと。

そうすると、商社と公社と雇用というのはまた増えていくという考え方にも行き着くんじゃな

いかなというふうに考えております。

ある程度県との話し合いの中で商社をやるということで、予算にもそういった予算が出ているところでもありますので、今さらそれをとやかく言うつもりはございませんけども、まだできたわけでもないし、構想の段階ですので、県は県のほうの、協議会は協議会のほうでおつき合いはしていただきながら、市は市として公社と商社の区別、一般事業者との商品の区別、原料調達のあり方等を検討していくと、なかなか難しいものがあるんじゃないかなと。

先ほど原料を調達して配送しますよという、配送というか、加工業者に配送するという形になるとは思いませんけども、仮に一括原料を購入した場合は、商社も手数料を取ります、運営上。その手の加工業者というのは手数料を15か20通常だったら払わんばいかなです。それだけ製造単価が上がっていくわけです。それだけのペイをしようとしたら、なかなか個人事業者は逆に育たないんじゃないかなという危惧も私の中にはあります。

今から考える時間はまだありますので、ただ、この豊玉町の振興公社をどの時点で商社の名称変更の手続を考えておられるのかもまだ存じませんが、ここら辺のタイミングがあらうかと思っておりますので、もう一度そこら辺を整理していただいて、御返答を願いたい。

もう1点、それと、先ほど観光物産協会のことを言いましたが、これは、前は観光と物産は別々だったと思うので、ここ何年かのうちにこの形になっているので、あえて切り離すということもどうかと思うんですけども、これは私の持論ですけども、観光と物産は切り離して運営すべきだと考えております。

というのは、予算の中を見させてもらいました。これが全部が当たるとは思いませんけども、観光物産協会に市の観光商工課が委託している事業があります。例えば「つしまヂカラ」発掘推進事業、これが約2,000万、アンテナショップ、観光交流拠点とあって、これはよりあい処かふれあい処かと思うんですけど、ここに約500万、観光リニューアル事業の情報発信と対馬ファンの獲得に1,300万、これは観光商工課のほうから観光物産協会の委託事業としてこの金額が予算上流れております。

ここら辺も含めて教えていただければと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、地域商社についてでございますけども、冒頭申し上げましたように、今現在、その製造、そして、流過程に精通した方と既に協議を済ませて、この9月からこちらの商社のほうに入っていただくことになっております。

この方につきましては、これまでも経験、その製造過程、そして、販売関係の経験が豊富な方でございますので、この方を中心にこの運営をしていただきたいというふうに思っております。

そして、あくまでこの地域商社につきましては、その製造から販売までを中心とする部分と、

市内のまた加工業者様の製品を関東、そしてまた、福岡方面のほうへ販売のルートに乗せるというような役目も負った商社を一応考えているところでございます。

そういうことで、今現在、先ほども今、長郷議員のほうからも話があつておりましたけども、そういった顧客の方がかなりいらっしゃることも聞いておりますので、それで一生懸命目指していきたいというふうに考えております。

それから、観光物産協会の件につきましては、私もどういった内容の質問だったのかなと、何かピンと来なかったんですけども、要は、私自身は、この観光と物産は切り離すべきではなくて、あくまでこの観光産業と対馬でつくられた物産のほうは、例えば福岡のアンテナショップ等でこれをPRしていただきながら売っていただくということも考えておりますので、切り離さずに、一体となって進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） まず、観光物産協会との関係ですけども、どうしても切り離すという話ではありません。ただ、物産という部門において、先ほど言いましたように、市のほうが予算を投げかけて委託しております事業、これと商社のやるPR、多分重なることはないと思うんですけども、いずれにしても首都圏です、狙いは。だったらちょっとかぶるかなという、無駄な金が別々に動いているのかなと。

ただイベントを開くだけの予算なのか、それとも発掘、商品開発、これ商品開発とか発掘とか書いてあるから、そちらに考えが行くんですけど、もしそうであったら、商社のやろうとしていることと、市が委託していることはどうなのかなと、ちょっと疑問が沸くんです。

500万とか100万じゃなくて2,000万ですから、金額が。これは何を意味しているのか、私が当初予算のときにいてない関係でよくわかっていない部分もありますけども、ここら辺は気になるところなんです、同じ予算を使うということであれば。

それで、先ほど言いました観光物産協会については、その部分だけが危惧しているということで御理解ください。

もう一つ確認したいのは、今からこれ漁協のほうに説明されて、出捐金もいただいたというお話でしたよね。となれば、（発言する者あり）いただくことが了解できたということですか。了解できたんですね。

もう一つ気がかりなのは、例えばブランド商品、あるじゃないですか、対馬の中に幾らか通っているやつ。このブランド商品で、この商社で取り扱うことは可能とお考えですか。どうぞ。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） ブランド商品につきましては、これが果たして対馬市の地域商社のほうで使えるかどうかというのは、今現在、意匠権を持っている漁協とか、そういう団体等との協議

が必要であろうかというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） そうですね、なかなかブランド商品を1割、2割抜くというのは至難の業だと考えます。

きのうやったか、けさやったかな、てっぺんアジの車が走っていました、厳原に向けて。なるほどなど、これも対馬ブランド魚だから当然行っているよね、そしたら、テレビで、二、三日前でしたか、てっぺんアジのことを言っていたんです。

ほとんど沼津に行っているらしいんです。沼津に行っていて、沼津の加工業者の方が、対馬のてっぺんアジはすごいですよという加工業者が宣伝していました。それでも偶然にも見たというだけの話なんですけど、結局それだけすばらしいものであるということが向こうの業者の方も認めていただいている。これに限らず、ほかのお魚もそうなんでしょう。

そういったものが手に入らないと何を売るんだと、何をメインにして商社は売っていくんだという話になりますよね。そこら辺はよく調整をしていただきたいと、かように考える次第です。

それと、これはたわいない話かもしれませんが、地域商社をつくれますよと一般市民に告知されているとかPRするとか、そういったことは今現在考えておありですか。

それともう1点、その商社を建てるときの事業所、事業者、または立ち上げる時期、そういったものについての担当部署はどこが受け持っているんですか。よろしくお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この地域商社の立ち上げ等を担当している部署のほうからお答えさせていただきます。

○議長（小川 廣康君） しまづくり推進部長、阿比留勝也君。

○しまづくり推進部長（阿比留勝也君） 地域商社につきまして、先ほど何をメインに売り込むのかという話がありましたが、冒頭市長の説明にもございましたように、向こうから対馬に来られた場合に、そのいわゆるブランド、ブランド魚と言われるものが市内で食べられないと、そういったものも取り扱いということが一つのメインにはなろうかと思っております。

それと、地域商社のPRですけれども、先ほども話がありましたように、9月から専門の人材を入れるということで今いろんな組み立てを行っております。ですから、中身がまだ決まらない現段階では、地元に対するPRはまだ行っておりません。その後に製造業者様とかいろんなところに話をしながら、地元でそういうものが食されるような体制づくりに努めていきたいと。

現段階の担当部ですけれども、立ち上げまでをしまづくり推進部と、その後、運用につきましては農林水産部と中対馬振興部をお願いをしていきたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） 姿が大分見えてきたんですけど、まず1点、食べられないという話をよく聞きます。対馬に行ってお魚食べられんやったら、この原因おわかりですか。わかってあげばよろしくをお願いします。

○議長（小川 廣康君） しまづくり推進部長、阿比留勝也君。

○しまづくり推進部長（阿比留勝也君） 現段階で流通が全て系統流通で一気に向こうに運んでいるという状況で、個人的に取引をしている幾つかの料理屋さんが市内では提供されていると、それ以外につきましては全て漁協が一気に本土のほうに運んでいるというのが現状となっております。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） それも原因の一つだとは考えます。

もう一つ原因があるんです。今度、今考えてあるのは、供給側しか考えられていない返答が全部今までの返事なんですけど、消費側、または売る側、小売店側、ここの気持ちになったときに、例えば飲食業をされている方が、欲しいんだけどね手に入らないんだよという話を多分聞かれたと思うので、こういう表現になりやすいんですけども、欲しいんだけど、それをさばくだけのお客さんがうちには来てくれないんだよねという話もあるんです。

大きい、魚はどうでもいいけど、5キロとか10キロあるとするじゃないですか、何キロそうやって自分のところで消費できるのかというんです。3キロしか消費できないものを飲食店さんは買えません。ロスです、単価がかかります。そんな高いものを、対馬に来て魚食べないよという悪評にもなりかねない。

ここら辺を考えたときに、私の言っているのが少しは見えてくるんじゃないかなという気はしているんですけど、供給側は確かに漁協があります、大丈夫でしょう。流通センターもつくりま、大丈夫でしょう。ただし、このときは割高になりますよ。そこを頭に置いて考えてください。

そして、さっき言ったように、食べられない理由は、部長のおっしゃった理由も一つです。今度は売る側の、提供する側の私の言っているのもあるんです。そこら辺をうまいぐあい、時間がありますので、もう一度そこをよく精査されて、関係団体と話しを詰められて、どういった機能でいけば、この考えている構想がうまいぐあいにいくのか、そこら辺は詰める必要があると思います。

やらないというんじゃなくて、やるということですから、やってもらえれば良いと思うんですけども、今私が危惧している二、三点言いましたけども、そこら辺をしっかりと確認をして事業の展開に持ち込んでいただきたいと思っております。

先ほど言いかけても、雇用の見地から見ると、商社を立ち上げて3名雇用です。13の事業所が雇用しますとって先ほど、最終的には90名近くなりますよって話です。多い

少ないは別にしまして、もっと雇用を増やそうと思うなら、小規模事業者とか、育成をもっと考えていただいてもいいんじゃないかと考えます。

大きいとこだけを相手にしていたら、なかなか先ほど言う原料の問題もありますので難しい部分もあろうかと思えます。商社は商社でやられれば結構です。しかし、小規模な今やっている事業者以外にも手を挙げてやりたい人はいるんだけど、そのすべを知らない。

ここでひとつ、これは要望なんですけども、創業起業のサポートセンターをつくられたらいかがですか。

というのは、こう言えば、アドバイザー制度が対馬にありますよっていう答えはもう要りません。アドバイザー制度はあるのは十分わかっていますから、そのアドバイザーってどのぐらいの頻度で来ているんですかという話になったときに困るんです。

例えば、申請をいつまで受け付けますよって告知します。その間二、三カ月あるとします。その間が勝負なんです。創業起業を考えている人は書類をつくるのが苦手なんです。そういうサポートをするのが市の職員では多分無理です。

市の職員が補助事業の流れとか補助の手続は十分指導はできますけども、中身に入り込んだ中の収支計画とか流通とか売り込み先とか、そういったものをちゃんと表現しないと、審査委員会は通してくれないはずですから、そこら辺をサポートする民間、またはそれに類似する人たちを少しこの雇用の面で考えてみたらという提案をしておきたいと思えます。

そうすることによって、こういうアイデアを持っているんだけど、作文が下手で補助金申請なんてしたことないし、プレゼン、そんなのもやったことないよと、そういう人たちは結構おられます。これ、私退職して4年たちましたけども、結構そういう人たちを今会う機会が多いんですけども、結構おられます。私もサポートはそんなに多くはしていないんですけど、相談には乗っています。

そういったサポートセンターみたいなものを、行きやすい場所に少し御検討をいただけたら、もっと創業起業増えて、事業所の数が増えていくんじゃないかなと思えます。

水産関係の話でした、今までは。さて、今度は農林関係はどうなるんでしょうか。この商社の話に戻しますけども、水産は今まで話をしてきたとおりですけど、農林関係の話がどうも見えないんですけども、ここら辺をお聞かせください。シイタケはもう結構です。シイタケはわかりますので。先ほど言われました。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほど、今度は農業関係をとということでございますけども、その前に、私は1件、長郷議員のほうは、配送センターで1軒当たりの取扱量が少ないからという話をされましたけども、私たちは、対馬市のこの地域商社がそれを取り扱うことによって、それぞれ小さ

い取り扱いの事業所とか居酒屋とか、そういったところにもこの供給が可能になっていくのではないかなど、全島規模を考えたときの、電話等によって、それを小規模に分けやすくなるのではないかなどというふうな考え方をしております。

それと、2点目の農協関係のほうはどうしているのかなということでございますけども、農協関係につきましても、これ、農協のほうからも同じく支援をしていただくことになっております。そういう面で、例えばシイタケはいいという話になりましたけど、シイタケはシイタケで今現在、シイタケ専業者様のほうでかなり太いパイプの販売ルートを持ってあります。

そういう中で、ほかの対馬産の産物につきましても、農協さんと今後いろんな面での協力体制を敷きながら、この地域商社のほうで扱える部分は扱っていききたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） 市長らしからぬ歯切れが悪かったですね、最後。

確かに農業関係は難しいという実態は私も重々知っておりますけど、ここら辺も少してこ入れしないといけないんじゃないかなど、これだけ荒れ地が出てきて、統一作物をひとつつくりましょうよ。あれがいいこれがいい、それは個人の自由です、つくるのは。しかし、市として何かつくりましょうよ。それを加工に回しましょうよ。

ただし、漬物離れですから、今の若者たちは。これはちょっと難しいです。相当なものがなければ。だから、そこら辺は農林のほうとよく協議されて、何かこれだったら市も補助金出してどんどんつくらせるよ、責任持つよというようなやつをつくりましょう。そうしないと、何といっても水かけ論の応酬で時間の無駄じゃないかなど。

もう一つ、これは要望だけど、さっき配送センターで言われたけど、私が言っているのは、配送センターもいいんですけど、小売単価が上がるよと言っているんです。手数料がゼロだったら上がりません。しかしそうはいかんでしょ。だから、そのときに果たして小売店さんたちが1割5分か2割アップしたやつで売り切ることが可能かどうかも頭に入れて検討をしてみてください。

そこが結構流通の、市長もこの3月の定例会の中で、流通配送センターはまだ考えが固まっていないみたいな答弁が多々読みとれますので、1カ所なのか2カ所なのか、そこら辺は精査していただいて、いずれにしても配送センターは必要と思います。

ただ、言うように、先ほど、くどいですが、単価が上がりますよと、ここだけはどのような形でそれをフォローしていくかは御検討願いたいと思います。

そして、先ほど言いましたアドバイザー制度は、何かありますか。サポートセンターね。

○議長（小川 廣康君） しまづくり推進部長、阿比留勝也君。

○しまづくり推進部長（阿比留勝也君） 現在、新法の中で創業規模拡大ということで、しまづくり推進部のほうでいろんな創業の関係の、六次産業化も含めていろんな相談を受けております。

それにあわせてそれぞれの専門家に依頼をしておると、それと、商工会、銀行等とも話をしております。いろんな、新たに創業される方々の相談もここで積極的に引き受けて相談に乗っていききたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） ごめんなさい。弱いね。それでは弱いです。それは今ある現実を言っているじゃないですか。今がそうなんです。今そうだからもうちょっとこ入れませんかと言ってあるわけ。

例えば、中小企業団がやっているよろず支援相談、商工会の指導員が市民お世話している支援センター、あるのは十分知っているんだけど、連携ができていないじゃないですか、現実的に。私も民間人ですから、これを利用させていただいていますので、そこら辺はよく知っているつもりなんですけど、あえてサポートセンターと言っているのは、市内の中におられる方でいいんじゃないかなという気がしているんです。

あえて長崎、福岡とか、そういったわざわざアドバイザーを連れてこなくてもいいんじゃないかなという気がしているんです。

だから、そういった人材はおられると思います、市内の中に。そういった方々ともう1回よくお話をなされて、これはぜひサポートセンター、気軽に行ける、申請の時期だけでいいんです、1年間フルじゃなくても。3カ月なら3カ月の間だけでも、ちゃんと親身になって相談に乗れる人材を発掘していただいて、やる気のある事業者たちを育てていっていただきたいと、かように思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで長郷泰二君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩いたします。再開を3時ちょうどからします。

午後2時46分休憩

午後2時59分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き一般質問を行います。17番、作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） 皆さん、こんにちは。最後の質問になります。少し眠たいでしょうが、我慢して聞いていただきたいと思います。

私も21日の選挙で6期目の当選をさせていただきました。これから一生懸命頑張っていきたいと思います。対馬市議会も小川議長、それから、上野副議長、この体制も決まりました。委員